

茨木支援学校では令和元年10月21日に全教員を対象に「体罰防止と教員の言動について考える」研修を行いました。そこで、全教員が「体罰防止と教員の言動について」の「私の決意」を表明いたしました。

その全文を掲載することで、本校の体罰防止と人権擁護についての行動アピールとし、今後も児童生徒一人ひとりに合わせた教育支援活動を行ってまいります。

## 私の決意

・自分が教員であることの誇りは、ひときわ人権意識を高く持ち、周りの（生徒を含めた）人々への愛情を持って接することができる...ということにある。その信念のもとに、今までにも生徒や他の教員に接してきたし、これからもそれはずっと続いていくものである。

- ・まずは自分が楽しむ！！
- ・気がついたことをどんどん言う。
- ・話し合う機会を増やす。
- ・生徒の情報をさらにくわしく把握し、教育内容についてもっと話し合う。
- ・人権について学び、考え続ける。
- ・生徒のことも教員同士のこともこまめに情報共有。
- ・チームの中で問題点も良い点も声に出して共有できる雰囲気を作りたい。
- ・生徒ひとりひとりをしっかりと理解し、笑顔を絶やさず、寄り添って支援していく。
- ・子どもたちに、いつも笑顔で向きあい何事にも常に冷静に対応できるよう心がけていく。
- ・この問題は、本人の感情コントロール、周りの環境いろいろなことが重なっておこること。人間ならだれしも合う合わないがあっても普通でそれはたとえ教員と生徒でも起こりえることで、ただ合わないから暴言、暴力をしていいことにはならない。それを伝えられて、補え合える環境を作る必要があると思う。苦手な場合、どうしたらいいか、教員と生徒が良い関係を保つためには何が必要でどうするのがいいのか、そういうことを話し合えて助け合える職場の環境を作っていきたいと思う。
- ・アンガーマネジメントのスキルを向上させる。
- ・論理的に話せるようになる。
- ・教員による問題のある指導を目にした際は、注意するとともに生徒の安全を確保する。
- ・自分自身の言動や指導方法に問題がないか常に意識する。
- ・子どもも大人と同じ1人の人間だときちんと意識して生徒に対する敬意をもって指導にあたる。
- ・「体罰だからやってはいけない」ではなく「子どもの人権を守るために力に頼る指導をしてはいけない」ということを再確認する。
- ・教員同士、意見を出しやすい環境を作るため、他の教員と日頃からコミュニケーションをとることを意識する。

- ・子ども1人1人を大切に 一緒に働く教職員1人1人を大切に。
- ・体罰事象には非常に胸が痛みます。この様な事が二度とおこらないように。
- ・保護者の立場になって、「こういった場面ではこういう風にしてほしい」だろうかとイメージしながら対応していく。自分の指導に対する思いや熱意と保護者のニーズとの折り合いをつけていくことは難しいが…。
- ・ことばかけを丁寧にする心を心がける。(人権意識、ことばを丁寧にする事で冷静に生徒と距離を保つことができると思うので。)
- ・気になる場面があれば勇気を出して伝える。指導を代わるなど。
- ・互いの言動を疑問に感じた時に伝え合える関係づくりに努める。
- ・生徒の人権や人格を尊重し、生徒の障がいや困りごとに寄り添える教員でいられるようになります。
- ・自分の体調や気分を左右されず、常に冷静で穏やかな人間でいられるようにします。
- ・子どもにひとりの人間として接し、その人権が守られるようなことばかけや行動をします。
- ・子どもの尊厳が損なわれる事がないように教員同士で指導についての共通理解を深めるようにします。
- ・子どもをとりまく環境を整えるため、教員同士が注意し合える職場にします。
- ・これまで以上に児童・生徒の人権意識を高める。
- ・職員間の気になる言動にはためらわず、何かリアクションをおこす。
- ・職員間のすばらしい言動に気づいた時も、ためらわず、ほめる等何かアクションをおこす。
- ・仕事内容、量の見直しを行い、余裕の持てる時間を確保していく。
- ・限界を感じる前にヘルプを出す！ヘルプに気づく！
- ・これまで同様、生徒を一人の人間として誠意を持って接する。ストレスをためず何かあれば周りの教員へ助けを求め、一人で悩みを抱え込まない。
- ・日頃から報連相を徹底できるようにする。
- ・個別の対応を大切にしながらも全体に意識をむけられるようにする。
- ・自分が教師であることを何時も忘れないようにすること。対生徒である以上は、教師は普段どおりの感情で接しない。
- ・教師であるという自覚をしっかりと持ち、目の前の子どもたちのために、子どもたちの目線や立場に立った指導支援をする。
- ・職場の先生方をリスペクトする。
- ・日々の生徒への発言内容、指導方法に対し、生徒への配慮があったか不適切でなかったか、振り返るように心がけます。
- ・他の教員とも、生徒への対応について互いに話し合える関係を作れるようにします。
- ・生徒1人1人が伝えようとしていることを受けとめ、教員同士でしっかりコミュニケー

ションをとり共有する。

- 色々な可能性、選択肢を考えて行動する。
- これはどういうことだろうと思うことがあれば、納得いくまで話し合う。
- いつも冷静に、子どもの気持ちになって考える。
- 生徒に対する深い理解に基づいた上で、個性を伸びやかに育むと同時に、より効果の高い方法で学習できるように取り組む。
- 1人で対応することは避け、なるべく複数教員で対応する。
- 余暇を充実させて、常に（精神的に）余裕を持って仕事に取り組む。
- 自分だけで生徒をどうにかしなくては、という考えに固執せず、日頃から生徒の特性とそれに合った指導、接し方について周りの教員とコミュニケーションをとる。
- 同僚に間違っていると感じることは指摘します。
- 子どもたちの気持ちに寄り添うことを忘れません。
- 自己理解を深め、まちがった指導をした時、立ち止まって考えるようにする。
- 一緒に働く同僚に対し、敬意を払うとともに、違和感を感じた時、勇気を持って言うようにする。
- 常に気持ちにゆとりを持って、生徒と関わります。何かあった時は、1人で何とかしようせず、チームで話し合いながら対応します。
- 私は、これまで通り、児童・生徒の生活環境・保護者の願い、生育暦をしっかりと把握し、一日一日を大切に、児童生徒に対して、精一杯関わっていくつもりです。児童生徒の小さな変化や保護者が伝える内容（ノートや懇談などで）での、本心の想い（本当に言いたい事）を感じ取りながら取り組んでいきます。
- 冷静な態度と心にゆとりを持つ！
- 人権を大切にする。
- 教員同士が何でも言い合える環境をつくる。
- 子どものことを常に考えて行動する。
- プロ意識をもって、保護者・生徒が笑顔で過ごせる学校にする。
- 私は、生徒と目を合わせ、心を合わせて学校生活をおくります。教員としての自覚をもち、教育に心をそそぎます。
- 1つ1つの業務を1から見直し、基本に忠実に、ゆとりを持ってします。
- 自分の子どもと思って教育する。
- 余裕のない時は、「一歩立ち止まる勇気」を持つ。
- 笑顔で優しく。
- 周りをもっと信用する。良いところさがしをがんばる。なるべく笑顔で！
- 人の悪い所ではなく、よい所をみて、ほめる様にする。心にゆとりをもつ！！
- こどものいいところをたくさんみつける、ホメる
- 心にゆとりを持つ

- ・自分自身でかかえこまず、まわりの助けをもとめながら、心にゆとりをもつ。
- ・心地よく誰もが働ける環境づくり 愛をもって皆と助け合う！！
- ・生徒に寄り添い、心を通わせた支援をし、生徒の未来を想い生徒の想いを導いてゆきたい。
- ・日々生徒を思い、生徒について考え、日々、多くの教員と生徒について話し合う。
- ・心に余裕を、焦らずに支援する。
- ・生徒1人ひとりに思いやりをもって接します。
- ・みんなが楽しく学校生活がおくれる学校づくりに取り組む。
- ・子どもの想いを大切に。
- ・「楽しさ」を大事にします。
- ・心をきれいにしようと思う！！
- ・子どもの心に寄り添った教育活動の実践。(今までと同様)
- ・生徒のことを一番に考える！！
- ・子どもたちと笑顔で触れ合うことができる。環境づくり。
- ・暴行の目を摘むために、人権についてのヒヤリハットを一年間に一本はレポートを出します。
- ・生徒への愛情、同僚への愛情、学校への愛情
- ・子どもたちが安心して楽しくすごせる学校づくり
- ・～笑顔～生徒理解の徹底・共有～思いやり～
- ・子どもが楽しく学べる学校であるように、日々新しい気持ちで取り組むようにしたいと思います。
- ・笑顔 思いやり・生徒への愛情 気配り
- ・笑顔で思いやりの心で子ども達と接していく。
- ・周りと協力します。
- ・イライラしたら誰かに話そう！
- ・自分が思ったり、感じたり、気づいたりしたことは周りの人に相談する。
- ・周りの教員の様子に気を配る。
- ・笑顔で接することを忘れない。
- ・生徒に寄り添う気持ちを常に持つ。
- ・疑問に感じたことは周りに聞く。
- ・チームワーク！
- ・良いところも、悪いところも何でも話せる雰囲気をつくる。
- ・子どもの立場、目線に立って、子どもが安心できることばかけ、指導、介助
- ・人と接する仕事のプロとしてコミュニケーションの質を向上させる。(言葉づかい、呼称、授業内外での立ち振舞い、同僚との関わり)
- ・平常心で落ち着いて考え行動する。

- ・生徒の接し方、ことばかけが、どうだったのかを振り返りをしていきたい。
- ・教員同士がお互いに支え合える関係性をつくり、チームとして子どもに向き合っていく。
- ・学校＝一つのチーム みんなと成し遂げる！
- ・教師を演じきる。
- ・困っている先生がいる時は、助ける。自分が困っているしんどいことは、他の先生に助けを求める！
- ・オープンマインド
- ・時間を守る。
- ・時間的、精神的余裕を組織的に作れるようにし、生徒との関わりに一番力を注げる風土を作る。
- ・子どもの目線に立ち考えます。他の教員と情報交換し、自分の考え方が正しいのか常にふりかえり、指導にあたります。子どもたちや保護者の方、他の教員から教えていただいたことを大切にしていきます。
- ・そもそも、生徒に対する体罰や人格を無視した発言をしてしまうような意識を持ちあわせない。その上で、他の教員に助けを求めたり、自分がまわりを見て助けようという環境をつくる。しかし、そのためには学校運営上、時間的に人員的に厳しい部分もあるので、そういった部分を改善できるような機会があれば、積極的に参加し、発言したい。
- ・常に冷静に相手の気持ちが第一。
- ・笑顔で過ごせる学校。
- ・よいところをほめる、実感できるように伝える。
- ・教職員としての自覚を持った、発言と行動をする。
- ・児童に常によりそい、大きな心で接していきます。
- ・生徒の感情や考えに配慮しつつ、生徒自身が卒業後に向けて力を伸ばしていくことができるように日々接していく。
- ・周囲の教員と互いに協力し合い、互いに無理のないような働く環境を整えていくよう心がける。
- ・子どもの気持ちを第一に考えて、子どもたちが毎日楽しく過ごせるようにサポートしたいと思います。
- ・どんなときも体罰に頼ることのないよう、指導力を高めて日々の教育実践を進めていきます！
- ・子どもの痛み（心と身体）や不安にもっとアンテナを働かせ《生まれてきて良かった》と思える人生に導けるよう精進します。
- ・いつも児童生徒のことを考えて、どうしたら笑顔やがんばる気持ちを引き出せるかに力を注ぎます。
- ・体罰しません、体罰させません。
- ・生徒の気持ちを考えていく。

- 1人で悩まず困ったこと、気になることがあれば周りの先生に相談・共有する。
- 生徒ファーストで！！
- 冷静さを失いそうになった時は、ひと呼吸おいて子どもと対応する。できるだけ、子どもの気持ちによりそえるようにする。
- 普段から生徒のことで、気になることがあれば、他の先生方と話をし、共有していく。他の先生方の話も聞く。悩みを一人で抱え込まず、抱え込まさない。心にゆとりをもって授業や生活指導に取り組む。
- 児童生徒の実態把握を充分に行います。
- 学年、グループ等の教員間のコミュニケーションを密にとります。
- 周囲の先生方とコミュニケーションをとり、生徒の実態を把握して体罰のない教育をすすめます。
- 生徒理解、障がい理解を深められるよう、日々コミュニケーションを大切に自己研鑽を積んでいきたいと思えます。また、教員間の風通しやコミュニケーションを充実させることが、体罰の抑止力になると思えます。
- 教員間のコミュニケーション能力の向上。
- 生徒の実態把握の見直し。
- 生徒への対応について考える。(距離間等について)
- 働きやすい学校。
- 専門性を高める。
- 子どもの姿に願いをもって取りくむ。
- 発達の理解。
- 働きやすい環境づくり
- 全員が全員の権利を守れるように努力する。
- 勤務時間を過ぎても残っているような仕事の組み方はしない。ゆとりを持って働き、学校全体もそうなるように、たゆまず声をあげていく。
- プラス思考への言葉かけ(子どもへも、他の教員の方へも)をしたい。
- ゆとりある環境作りをしたい。
- プロの教員として感情的にならず冷静に対応する。
- 常に児童の気持ちを考えて、よい所を見つけ喜びあう姿勢で支援にあたる。
- 教員同士で話し合える環境をつくる。
- 誰に対しても思いやり
- 平常心を保つ
- ゆとりを持つ
- 生徒と楽しく過ごす。
- 生徒も周りの教員も自分自身も大切にする。
- 自分を大切にすることが、他者を大切にすることにつながると思うので、自分を大切に

したいと思います。

- ・楽しい学校にする。
- ・日々振り返り、改善、向上。
- ・あなたと私はいつも支えあっています。
- ・人に優しく。
- ・いつも思いやりを持って
- ・子どもが日々楽しめるように何をすればよいか考える。
- ・子どもが楽しく安全に、学校生活を送れる環境づくりに取り組みます。
- ・自分の言動を見つめ直し、子どもが安全安心して過ごせる学校をつくる。
- ・子どもが、毎日、楽しく過ごせる学校にします。
- ・周囲に気になることがあれば、言いにくいことでも、何らかの方法で伝える。
- ・カッとなることがあっても、気持ちのコントロールができる余裕を持てるよう意識を高める訓練をしたい。
- ・担当性にする問題点を改善していく、取り組みを増やす。
- ・周囲のかかわりにくさを生んでいないか、ローテーションでまわすルールの確立。
- ・教員の問題、相談など日常的にできていない。できるように真の休みの時間、交流できる場ができていない。
- ・感情のコントロールと余裕をなくしている教員の忙しさの解消をめざす。
- ・仕事を1人でかかえず、グループで分担し進める。
- ・良いことは良い 悪いことは悪い これをはっきり言い合える環境づくりに取り組みます。
- ・たくさん子どもたちに積極的に声かけ（あいさつ）をする。
- ・もっと、こうすればいいのでは？と思ったら、周りの人に言う。
- ・いつも、心に余裕をもつ！！
- ・信頼 仲間を信じて助けを求める。
- ・困ったらヘルプを出す。（自分で解決しなくっちゃ…ではなく）
- ・体罰を行った教員自身の気持ちは理解できないが、体罰が起きない環境づくり（教員どうしでのコミュニケーションを密にとる事）に努めたいと思う。
- ・教育者として、生徒の未来を考える。
- ・SOSが出せる。教員間のコミュニケーション作り周りが助けてくれるような《信頼》を作る。
- ・最大限の人権尊重の意識を持ち子どもに接する。
- ・プロ意識を持ち教育活動をする。
- ・教員同士が高め合える関係性をつくる。
- ・いつでも子どもたちの応援団として研鑽を積み、初心を忘れずチーム力を向上させて教育活動に全力を尽くします。